

2018 年度 事業報告書

自 2018 年 4 月 1 日
至 2019 年 3 月 31 日

公益財団法人日本テレビ小鳩文化事業団

2018年度 事業報告

2018年4月1日～2019年3月31日

1. 視聴覚障害者の日常生活の支援及び生活支援の援助者養成

(1) 手話放送番組の制作支援

日本テレビのニュース番組「NNNニュースサンデー」の手話放送に出演する手話通訳士の派遣事業。当該番組は、毎週日曜午前6時15分～6時30分まで全国ネットで放送でしている。手話通訳を、画面右下にワイプで挿入している。

2018年度も東京都聴覚障害者連盟から推薦を受けた4名の手話通訳士が、交互に年間52回の手話放送に携わり、聴覚障害者の方々への情報サービスを行ってきた。

(2) 点字カレンダーの製作及び無料配布

点字カレンダーは、1976年より制作して全国に無料配布を開始して以来、43年間続けている基幹事業。

月ごとに美しい写真を付けて、晴眼者と視覚障害者とのコミュニケーションを深める願いが込められている。2019年版は、「国定公園の四季」をテーマに2万部を製作。日本点字図書館の協力で、全国盲学校、盲人施設、盲人福祉関係団体、在宅盲人に無料配布した。また、日本テレビネットワーク各社の協力を得て、全国各地で別途2万部余りの無料配布も行った。

(点字製作：日本点字図書館 写真撮影：岩本圭介氏 デザイン：神馬俊二氏)

(3) 手話スクールの開講と手話の普及事業

手話スクールは、1975年に開講して以来、現在まで毎年行っている基幹事業。

手話ができる人を一人でも多く増やし、聴覚障害者への生活支援に貢献してもらうこ

とを目的としている。入門編・基礎編の2年制で、土曜日（1年生 13:20～14:50、2年生 15:00～16:30）開講。年間27回行った。

2019年度からは、新たに上級編として3年生の授業を開講した。手話をさらに深く学び、地域で手話を生かした活動や、手話通訳者を本格的に目指したい人のために開設した。

会場： 弘済会館 （東京都千代田区 麹町）

講師： 田原 直幸（たはら なおゆき）

助手： 堀 浩司（ほりひろし） 黒澤るみ子

生徒数： 1年生 37名、2年生 38名 （2019年3月31日現在）

24時間テレビへの協力

手話スクールの手話コーラス部員7名が、8月25日～26日の「24時間テレビ」に出演し日本武道館のステージに立ったほか、手話通訳士5名が、聴覚障害者の来場に対応するための手話通訳ボランティアとして協力した。

(4) 視覚障害者に向けて ～ラジオ番組からの情報発信

視覚障害者に役立つ情報や、晴眼者にとっても有益な情報を発信する、ラジオ日本のラジオ番組「小鳩の愛」を2014年4月より放送開始。丸5年が経過した。

2019年度には、6年目を迎える。毎週日曜日の朝7時5分から20分まで放送。ラジオ日本と富山県をカバーする北日本放送、KNBラジオでも放送されている。

視覚障害者と一緒に楽しめるイベントとして、盲目のシンガーソングライター栗山龍太さんのコンサートを、3月9日（土）横浜のラジオ日本本社のラジアントホールにて開催。60分のラジオ特別番組として、3月16日（土）20時からラジオ日本で放送した。

2. 視聴覚障害者を支援する団体への助成

(1) 角膜移植・再生医療への助成

助成先：移植・再生医療を支える会

視覚障害者治療に貢献することを目的に、複数の大学病院の角膜移植・再生医療・iPS細胞研究及びアイバンクに助成を行った。

(2) 聴覚障害児の学校への助成

助成先：学校法人日本聾話学校

下記日程で開催された日本聾話学校の夏期学校への助成。耳の不自由な児童生徒にとって、親元から離れて過ごす団体生活は心身の鍛練と秩序ある団体生活の貴重な体験であり、一般社会へ順応する訓練になった。

○幼稚部

6月28日(木)～6月29日(金)1泊2日 大地沢青少年センター(町田市相原町)

参加人数：生徒4名、教師5名、計9名。

○小学部生徒

7月4日(水)～7月6日(金)2泊3日 群馬県利根郡片品村東小川(シャレー丸沼)

参加人数：生徒30名、教師9名 計39名

○中学部生徒

7月11日(水)～7月13日(金)2泊3日

長野県南佐久郡川上村秋山(せせらぎの里町田市自然休暇村)

参加人数：生徒14名、教師7名 計21名

(3) 視覚障害者福祉DVDの製作及び生活支援活動への助成

助成先：社会福祉法人日本盲人職能開発センター

- ・ボランティア指導用DVD 「共に生きる」視覚障害者の権利 ～日本盲人会
連合 70 年の活動～ 製作へ助成

- ・下記福祉講演会出張費への助成（2018年4月1日～2019年3月31日）

NO	開催日	用務地・内容	対象者	内容	備考
1	2018 5/31 ～ 6/2	(鹿児島市) 全国就労支援ネットワーク研 修会	職員・障害者・ ボランティア	福祉講演 ・映画	ガイドブック 配布
2	2018 7/2 ～ 7/3	(熊本市) 全国就労移行事業所連絡会	職員・障害者・ ボランティア	〃	〃
3	2018 9/14 ～ 9/16	(神戸市) 視覚リハビリテーション協会研 究発表会	職員・障害者・ ボランティア	〃	〃
4	2018 9/21 ～ 9/22	(大阪市) 能力開発施設連絡会	職員・障害者・ ボランティア 学生	〃	〃

- ・福祉映画利用相談及び貸出諸費への助成
- ・貸出ビデオ更新費への助成

(4) 「盲人との接し方」ガイドブックの製作への助成

助成先：社会福祉法人日本盲人職能開発センター

小冊子「盲人に接する人々のために」は視覚障害者との接し方をイラストを交えて分かりやすく解説したもの。1万部を製作し、視覚障害者の福祉講演会や映画会会場のほか、都道府県・市町村役場の福祉課にも配布した。

(5) 点字技能検定事業への助成

助成先：日本盲人社会福祉施設協議会

日本盲人社会福祉施設協議会の主催する点字技能検定事業に助成した。

全国の点字に関する卓越した知識、技術を持つ方に対し、点字技能検定を受ける機会を提供し、点字技能師の資格を付与することにより、点字関係職種の専門性と社会的認知度を高め、点字の普及と質の向上を図り、視覚障害者に的確な情報を提供することを目的としている。

2018年度の第19回点字技能検定試験は、東京、名古屋、大阪、福岡の4会場で行われた。

(6) 視覚障害者ケア専門技術認定講習会への助成

助成先：全国盲老人福祉施設連絡協議会

2018年7月31日（火）～8月3日（金）に都内で開催された第12回視覚障害者ケア専門技術認定講習会への助成。

この講習会は、全国の盲養護老人ホーム・聴覚障害老人ホーム及び特別盲養護老人ホームにおける視覚・聴覚障害者へケアをする専門職としての知識と専門的サービスの技術を取得し、施設におけるサービスの向上を目的として開催された。

(7) その他の助成

- ・聾者の団体が主催する野球大会に優勝・準優勝・最優秀投手賞楯を贈呈

助成先：神奈川ろう社会人軟式野球連盟

全日本ろう社会人軟式野球連盟

- ・チャリティ映画会開催に助成（映画のチケット購入）

助成先：日本点字図書館、日本聾話学校

- ・本間一夫文化賞に助成（記念品代）

助成先：日本点字図書館

- ・東京都盲人福祉大会に助成

助成先：東京都盲人福祉協会

- ・失明原因の解明と失明予防・知識の普及と啓発を図る

助成先：日本失明予防協会

- ・東京都社会福祉協議会関係会費

助成先：社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

3. 文化及び芸術に関する各種の公演、講座等

(1) グランプリ・コンサート2018 (公財)日本室内楽振興財団と共催

第9回大阪国際室内楽コンクールの第2部門（木管五重奏、サクソフォン四重奏、金管五重奏を対象）で優勝したグループを日本に招聘。全国10か所の公演のうち、東京公演を主催。

優勝したのは、4人の若きサクソフォン演奏者「クワチュオール・ザイール」（フランス）。卓越した技術と、自由と創造性に溢れた4人の演奏は素晴らしく、大好評であった。

日本点字図書館の協力で、視覚障がい者の方約60人を招待。普段、生のサクソフォンの演奏を聴くことが少ない方は、特に感激していた。

開催日：2018年11月18日(日) 会場：東京都文京区 トッパンホール

入場者数：265名

(2) 第12回 想いで^{おもいで}の詩 コンサート 東京公演 主催

世代やジャンルを超えて将来も残していきたい、歌い継いでいきたい日本の名曲を中心に選曲、構成したコンサート。

会場と一体となって、音楽の楽しさ、素晴らしさ、名曲の「詩」の素晴らしさ、日本の文化などを伝えていくコンサート。

昨年に引き続き、名ソプラノ歌手 家田紀子氏をはじめ、気鋭の声楽家が出演。また、FCT（福島中央テレビ）郡山少年少女合唱団が参加するのも大きな特徴。

一部・二部の構成。一部では、幼少の頃に聞いた名曲で構成、FCT郡山少年少女合唱団の伸びやかな歌声も素晴らしかった。

二部では、永六輔作詞、中村八大作曲の名曲や、70年代の名曲などで構成。会場全体が、名曲の数々でつづられた2時間を堪能した。

開催日：2018年9月22日(土) 会場;東京浜離宮朝日ホール。

入場者; 416名。

(3) スクールコンサート 広島県大崎上島にて開催

昨年からはスタートした新企画のコンサート。

このコンサートは、次代を担う、小・中学校の子供たちに、日本の名曲を中心にして、様々な音楽の素晴らしさと楽しさを伝えるコンサート。

名曲の歌詞を通じて、日本の文化の素晴らしさを伝えるだけでなく、プロの演奏家や歌手の生の演奏に触れる機会を創り、地元の小学生、中学生に、芸術への目を開かせ、豊かな感受性を育んでもらうことが目的。

普段、プロの生の音楽の演奏に接することが少ない、地方での開催を中心に考えている。2018年度は、瀬戸内海に浮かぶ広島県大崎上島で開催し、地元大崎上島の小学校、中学校の大勢の生徒が、このコンサートを体験し、大変な好評を博した。

全国の小中学校、及び教育委員会、音楽ホールと協力して実施している。

開催日：2018年6月21日(木)～22日(金)

会場： 広島県大崎上島文化センター

入場者： 330 名。 大崎小学校、東野小学校、木江小学校、大崎上島中学校を
対象。 無料。

また、東京都文京区の筑波大学附属視覚特別支援学校にて、ミニスクールコンサートを、6 月 28 日に開催した。視覚障害の小学生が、プロの演奏家の生演奏を体感した。

(4) 聲明公演 主催

日本音楽の源流といわれる「聲明」を日本の伝統文化と捉え、次代に継承することを目的としたコンサート。「天台聲明 七聲會」とピアノ、バイオリン、フルート、オーボエなどの西洋楽器や、琵琶が共演した。

第一部は、「六道講式」。迷いと苦しみに満ちた六道の世界「六道輪廻」を脱却して、仏教に救われるまでを、「琵琶」の演奏を組み込みながら演出。聲明だけの舞台。

第二部は、「天台密教」の世界を、財団のオリジナルの表現である、西洋楽器との共演で、第一部の「語り」とは異なり「音楽」に焦点をあて、「聲明」の新しい世界観を華やかな舞台として演出した。

開催日： 2019 年 1 月 26 日(土)

会場： 横浜市青葉区民文化センター(フィリアホール。)

入場者数： 418 名

(5) 親子で楽しむ〜つうコンサート 無料公演

團伊玖磨が作曲したオペラ「夕鶴」のエッセンスで構成された、ユニークなコンサート。人への思いやり、約束を守るということ、恩返しとは何か、など様々なことを語りかけてくるコンサート。

毎回、開催される地元の少年少女の合唱団が、プロの歌手と共演することもこのコンサートの大きな特徴である。

内容を、子供たちにも分かりやすくするため、序幕でイラストとナレーションを加える演出を行っている。

2018年度は、宮崎県延岡市、福岡県岡垣町の二か所で開催。

この公演も、普段、プロの生の音楽の演奏に接することが少ない、地方での開催を中心に考えている。

開催日：2018年8月5日(日) 会場：宮崎県延岡市 延岡総合文化センター

2018年11月11日(日) 会場：福岡県岡垣町 岡垣サンリーアイ

入場者：延岡公演 608名 岡垣公演 355名 いずれも入場無料

(6) 言葉の寺子屋～中学生から大人までの俳句塾（第9期）開催

中学生、高校生をメインの対象に、中学生から大人まで、俳句を通じて日本語というもの、日本独特の風習や文化というものを深く知ってもらうことを目的に行った。

年間講座回数：年 20回（土曜、14:30～16:30） 会場：弘済会館4階

講師：權 未知子氏 受講者数：27名 （2019年3月31日現在）

しかし、この数年間、中学生、高校生の申し込みがほとんどなく2018年度も同様だった。本来の目的を達成することが難しくなってきたため、2019年度より中止することを決定した。

4. 文化及び芸術に関する事業、活動への助成

(1) 「第70回 高円宮杯全日本中学校英語弁論大会」 に対する助成

助成先：日本学生協会基金

1949年という戦後のまだ混乱期に、今後の日本の将来を見据え、将来の日本を担う国際性豊かな青少年を育てるためには英語教育が必要である、という理念のもと立ち上げられた中学生の英語弁論大会。2018年度は、70回記念大会を行った。上記大会への助成。各都道府県で行われた予選には約10万人の全国の中学生が参加した。

(2) 在日外国人を対象にした日本語普及活動への助成

助成先：公益社団法人国際日本語普及協会

日本語教育を通じて文化を異にする人々の交流と相互理解の促進を目指す上記財団の諸活動への助成。

日本に住む外国人のための日本語学習教材の開発や、日本語教師を育成する研修会の開催、各地域で在住外国人を支援する方々からの相談受付などを行った。